

会 議 録

会議名 (審議会等名)		小金井市防災会議	
事務局 (担当課)		総務部地域安全課 防災消防係	
開催日時		令和4年8月5日(金)	
開催場所		書面審議による開催	
出席者	委員	会長：西岡 真一郎 委員：吉田 祐輔・田原 なるみ・細川 善樹・羽根 知秀(代理：天木 智男)・小澤 賢治・大熊 雅士・飯泉 和久・田村 裕一・飯田 成信・上田 晋也・岡村 優子・川上 卓郎・浅野 康弘・辰野 充宣・三島 協二・山岡 聡文・三村 義仁・数見 勲・鷹取 健輔・川畑 美和子・緒方 澄子・田川 尚子・勝見 正(代理：都 良祐)・笠原 富美子・延 毅彦・佐藤 義明・土屋 善弘・中村 哲	
	傍聴の可否	可・ <input checked="" type="checkbox"/> 不可・一部不可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		書面審議のため	
会議次第		1 小金井市地域防災計画(修正素案)について 2 令和4年度小金井市総合防災訓練の実施について 3 その他	
会議結果		書面審議の結果、原案を一部修正して決定・承認された。	
提出資料		資料1 小金井市防災会議委員名簿 資料2 小金井市防災会議条例 資料3-1 小金井市地域防災計画(修正方針) 資料3-2 東京の新たな被害想定(令和4年5月25日公表)について(別添)「東京の新たな被害想定 東京都防災会議」 資料3-3 小金井市地域防災計画(修正素案) 資料3-4 小金井市地域防災計画策定スケジュール 資料4-1 令和4年度小金井市総合防災訓練実施要綱(案) (別添1) 令和4年度小金井市総合防災訓練体系(案) (別添2) 令和4年度小金井市総合防災訓練進行表(案) 資料4-2 令和4年度小金井市総合防災訓練実施細目(案) (別添) 講評整列位置(案) 資料4-3 訓練会場案内図 資料5 返信用書式	

議題及び書面審議結果

1 小金井市地域防災計画（修正素案）について

（東京都多摩府中保健所 田原委員）

① 震災編の発災後の、応急対策時期と復旧時期の切替えの判断基準や目安があるのか、判断の情報などの様に職員や関係機関に伝達されるのか。（時期により担う役割が違う組織や職員が多くいるかと思われるため、判断基準や伝達方法がわかっていると切り替えがスムーズと思われるため。切替えの目安は概ね従来のフェーズのイメージでよろしいのかどうか。）

② 保健活動チームについて

(1) 災害前の準備（予防対策）：庁内組織横断的な専門職等によるチーム編成の準備、マニュアル作成、他縣市からの応援職員の受入れ準備とある。（第2部 6-28）

他縣市からの保健師の応援要請は、災害時の保健師等広域応援派遣調整要領（健健発 1220 第2号令和3年12月20日）に基づき、都に対して保健師等の派遣を要請する（実際には多摩府中保健所を通して都へ要請する）が、多摩府中保健所による第2部 6-43、44 と連動するため、準備段階から取組み状況を共有させていただけるとありがたい。

(2) 普及対策、防疫体制の確立（第2部 6-43）

市の活動内容の中に、「保健活動班を編成し、被災住民に対する健康調査及び健康相談を行う」とあるが、保健活動チームとの違いは何か。この班の指揮命令の考え方、チーム編成の考え方はどのようなものか。（保健所が連携を取って市の保健活動を支援していくためのカウンターパートの様に読めたための質問です。）

(3) 避難所の開設・運営についての、応急対策、復旧対策（第2部 8-29、30、32）

避難所開設後の避難者の健康管理、健康相談等、二次健康被害を予防するための活動（避難所の環境衛生的な管理も含む）は大変重要と考えます。その役割は、保健活動チームが担うと（第2部 6-28）読み取れました。

保健活動チームの業務内容や業務量から、既に人員不足が想定されると思われるため、災害直後から迅速に組織横断的に専門職等を参集させることの方針の共有と承認、速やかな応援要請等のための事前準備、その調整窓口となる平時からの統括保健師の配置（第2部 6-28）が重要と思います。

（小金井消防署 飯泉委員）

令和4年10月に改正される東京消防庁震災規程及び同事務処理要綱の改正により、小金井消防署の震災に関する部分の一部修正が発生する予定です。

（東京ガスネットワーク株式会社 岡村委員）

資料3-3 第3章 安全な交通ネットワーク及びライフライン等の確保

第1 現在の到達状況 3 エネルギーの確保 について、以下2点を追記いただきたい。

① 小金井市では既に「住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金」があり、対象となる住宅用燃料電池コージェネレーションシステムは、環境性に優れていると共に発電を行うことから在宅避難にも寄与し、災害時の自助力向上に貢献している。

② 市本部や避難所等の防災拠点において、自立・分散型エネルギーの設置等により停電対策の強化を図る、具体的にはエネルギー確保に必要な電源設備について、コージェネレーションシステムの導入を推進し、平常時から点検、操作訓練等を行うことにより、エネルギーの自立化・多重化を図り安全性を確保することが重要と考える。

（次頁へ）

### 【上記の理由】

災害による大規模停電発生時の災害対策本部等、災害対応拠点の機能確保と、72時間を超えた停電に対する備えとして、エネルギーの自立化・多重化が有効であることから、都市ガスコージェネレーションシステム等の自立分散型エネルギー等によるエネルギーのベストミックスを推進方針に盛り込むべきと考えます。

また、災害時のみならず、通常時においても活用できる高効率なコージェネレーションシステムによる自立分散型エネルギーの普及拡大への取り組みは、安定したエネルギーの確保と地球温暖化対策とを両立できる取り組みとして有効であると考えております。

住宅においては、災害時においても自宅で生活を継続できるよう、各住宅での太陽光・太陽熱の再生可能エネルギー利用とともに、気象等の条件に影響を受けにくい家庭用燃料電池や蓄電池等の設置についても盛り込むべきと考えます。また、太陽光発電、家庭用燃料電池、蓄電池にも活用できる電気自動車等の利用を促進するとともに、エレベーターの運転等に必要なエネルギーを確保した共同住宅の普及促進を推進方針に盛り込むべきと考えます。

### (小金井市悠友クラブ連合会 田川委員)

家具等の落下、家屋の倒壊予防は実施しても、何か頭上に落下して転ぶのを防ぐためにもヘルメットが必需品です。高齢者の方に聞いても持っている人は少ない(5,000円位する)。一人暮らし、持病のある方に買いやすくできませんか。家賃、薬・・・と日常生活に追われるようです。

### (市民公募 中村委員)

計画自体については異論なく承認いたします。ただ、計画のもととなる被害想定について一言いたく思います。

この被害想定はあくまで計画のため、ある一定の仮定のもとでの想定です。次にこのように地震・被害が発生することを予測しているわけではありません。この想定とはまったく違った事態、より大きな被害が発生する可能性も十分あります。特に、火災については出火件数が7件というコントロール可能な件数で収まるかどうか非常に心配です。

計画はあくまで計画として、より強い地震が来た時、想定外の被害が発生した時にも対応できるフレキシブルな体制を構築することをくれぐれも念頭においていただきたいと思います。

### (事務局)

上記意見を踏まえ、以下のとおり原案を一部修正する。

- ・第2部6-29 ページに以下のとおり追記

ウ 他縣市からの応援職員の受入れ

○ 市は、保健活動を実施するに当たり、市のみの態勢では保健活動を担うことが困難な事態が生じ、他地域、他縣市等から保健活動の応援を要請する必要があると認めた場合には、都に保健活動チームの派遣を要請する。また、応援要請の準備段階から多摩府中保健所と情報共有を行う。

- ・第2部6-43 ページの記述を、以下のとおり修正

○保健活動班を編成し、・・・ → (修正後) ○保健活動チームを編成し、・・・

※保健活動班は保健活動チームの誤記

(次頁へ)

・第2部 3-18 ページに以下のとおり追記

- 「小金井市住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金」の周知等により、住宅用太陽光発電システム、住宅用燃料電池コージェネレーション、住宅用蓄電システム等の普及を促進することで、住宅から排出される温室効果ガスの削減とともに、災害時においても生活の継続が可能な機能を備えた住宅の整備を促進する。

## 2 令和4年度小金井市総合防災訓練の実施について

### (小金井市獣医師会 鷹取委員)

現在のコロナ禍では訓練自体が難しいことも多いと思いますが、ペットの同行避難について将来的にはより現実に即した（(現状より) 少しずつでも拡大した）訓練を実施できたらと思います。

もしペットの屋内施設への同行避難が難しい場合、昨今、避難を要する災害に大雨等が目立ちますし、季節によっては暑さも深刻です。

仮に屋外でも、飼い主様が少しでも安心して同行避難できるような形を訓練の時に見てもらえたら、より理解していただけるのではと思います。

大変難しいことと承知していますが、小金井市、私たち獣医師、ボランティアの方々、市民の皆様に協力していただきより良いものにしていかれたらと思います。

### (小金井市障害者地域自立生活支援センター 都委員)

コロナウイルスの感染状況により、二次避難所開設等の訓練内容について検討することは可能として下さい。

### (市民公募 中村委員)

避難訓練が「避難所へ来るための訓練」「避難所を運営する訓練」だけに集中するのではなく、「在宅避難」を推奨する訓練としていただきたく思います。

災害が発生したら、すぐに避難所に行くのではなく、できるだけ自宅にとどまって、自分・近親者、近所の人々の命を守り、火事の発生等を防ぐことが重要であると思います。

基本は避難所ではなく「在宅避難」であること。そのための「水と食料の備蓄」「家具の固定」などを防災訓練の場でもより強く呼びかけていただきたく思います。

## 3 その他

### (東京都水道局 立川給水管理事務所 細川委員)

訓練にはできる限り関わらせていただきたいと考えています。

### (京王電鉄バス株式会社 辰野委員)

意見させていただいた部分も修正していただきありがとうございました。社会環境の急激な変化等により、今後も防災への取り組みの多様化・高度化が求められ、地域として柔軟に且つスピード感をもって対応することが必要になると思います。より連携強化していければと考えております。

### (小金井市民生委員児童委員協議会 緒方委員)

詳細な資料・タイムスケジュール等作成お疲れ様でした。「自らの身の安全は自らが守る。自分たちのまちは自分たちで守る。」日常より災害に対して十分な備えをし、防災意識を高めるためにも、ぜひ防災訓練に参加を多くの皆さんに願うばかりです。

(次頁へ)

**(小金井市悠友クラブ連合会 田川委員)**

資料をいただいたときは、悠友クラブの理事会（会長会）で「自らの身は、自分たちで守る」ための絆づくりであることを報告しております。

**(小金井市赤十字奉仕団 小金井防火女性の会 笠原委員)**

小金井は、大きな自然災害等がない地域であるが、防災に対する訓練や心構えは必要と感じています。1日も早くコロナの終息を祈っております。

**(市民公募 土屋委員)**

防災力は、一般に自助・共助の理念に基づく（公助の出番は最後）と言われますが、甚大な被害を受ける大規模な震災・風水害・事故等については、むしろ国・都などの公助の出番が最初であり、地方自治体は迅速に国・都（自衛隊を含む）と連携した行動が肝要と考えます。（公助の出番は最後などと『公』が言うべきでも、考えるべきでもないと思います。）

**(市民公募 中村委員)**

印刷された資料の配布は希望者だけでよいのではないのでしょうか。私自身は防災計画のような分厚い資料はPC画面で見るほうが楽なので印刷資料は不要です。またPDFを作る時に、目次（しおり）はソフトまかせで作るだけでなく、あとひと手間かけていただいて、余計な文字は削除しておいていただくと嬉しいです。